

吳清源年譜

大正 三年(一九一四)

中華民國三年旧曆五月十九日(新曆六月十二日)、中国福建省土垵(現・福州)で父・呉毅と母・舒文の三男として誕生。名を泉、字名を清源という。祖父は塩を扱う実業家だった。同年秋、一家で北京に移住。

七年(一九一八)

『四書五経』などの漢籍を学び始める(四歳)。

十年(一九二一)

父・呉毅から初めて囲碁の手ほどきを受け、『御城碁譜』などを並べる(七歳)。

十三年(一九二四)

北京・海豊軒において中国一流の棋客・顧如水と五子で対局する。

十四年(一九二五)

父・呉毅、三十三歳で結核により死去。同年、段祺瑞大統領のもとへ少年棋客として出入り。

十五年(一九二六)

北京の碁席に出入りして、天才少年として評判となる。日本人クラブで北京在住の山崎有民と面識を得る。同年夏、岩本薫六段が北京訪問の折りに対局し、三子で二連勝、二子で負ける。

昭和 二年(一九二七)

北京来訪の井上孝平五段に二子で勝ち、先で負け。小杉丁四段に二子で勝つ。呉清源の棋譜を見た瀬越憲作七段が「秀策の再来」と賞賛して、日本留学が決定する。

三年(一九二八)

瀬越七段の代理で北京に派遣された橋本宇太郎四段に先で二連勝。十月十八日に母、兄妹とともに渡日し、瀬越七段に入門する。

十二月、段位認定試験対局で、篠原正美四段に先で勝ち、本因坊秀哉名人に4目勝ちで、村島義勝四段、前田陳爾四段には先でともに勝つ(十四歳)。

四年(一九二九)

日本棋院より正式に三段を認められる。同年、読売新聞社勝ち抜き棋戦で十人抜きをする。

五年(一九三〇)

大手合に初参加。春は七勝一敗で三等、秋は八戦全勝で優勝。四段に昇段する。

七年(一九三二)

春の大手合で八戦全勝、秋は七勝一敗で五段に昇段。時事新報社勝ち抜き棋戦で十八人抜き。木谷実五段と十番碁開始(木谷五段が六段に昇段したため、三勝三敗で中止)。

八年(一九三三)

木谷実六段と新布石を共同研究、対局で新布石を多用する。十月、本因坊秀哉名人との記念対局に先で三々、星、天元の布石を打ち、満天下を騒がす(二目負け)。